

糖尿病教育入院におけるチームアプローチのあり方 - ケースカンファレンスを通して

6階東病棟

○ 溝渕 真衣 長野 三紀 澤田 美杉
 森本 玲加 森 郭子

I. はじめに

糖尿病は生活習慣病であり、生涯にわたり食事、運動、薬物療法を継続していく必要がある。そのためには患者教育が重要で、教育入院を行う病院や施設が増加してきている。

A院でもクリティカルパスに沿い、医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師が糖尿病教育入院（以下、教育入院）に携わっている。チーム医療としての看護師の役割には、チームコーディネーター、ケースマネジメント、アドボケイトなどがある^{1) 2)}とされている。また、糖尿病のチーム医療を考える上で看護職はチームの中心の患者の傍らにあり、チームの玄関口として、コーディネーターとして、自己管理訓練の要の役割を担っている³⁾といわれている。さらに、教育入院に関する研究の中には、他の医療職種との連携やカンファレンスによりチームワークの向上と患者指導の一貫性が保て、効果的に教育入院をすすめることができたという報告⁴⁾もされおり、教育入院におけるチーム医療の必要性が重視されている。また、岡谷¹⁾は、チーム医療を構成する重要な因子として、チームメンバーの合意による治療計画が立てられていること、各職種の専門性が尊重されること、チームメンバーの責任が明確であることなどの7項目をあげており、効果的なチームアプローチは、患者および家族を中心として、それぞれの専門家が役割を分担し協力して関わる必要があると、それぞれのスタッフが各職種の役割を理解しておくことが重要であるといえる。

しかし、A院の教育入院においてはケースカンファレンス（以下、カンファレンス）が行われておらず、各医療スタッフで十分なコミュニケーションがとれていない現状がある。そこで今回、教育入院において実際にカンファレンスを行い、各医療スタッフが教育入院におけるカンファレンスをどう捉えているのか、また、看護師の役割をどのように認識しているのか明らかにすることで、より効果的なチームアプローチの一助になると考える。

II. 研究目的

カンファレンスを通して、教育入院に関わる各医療スタッフがカンファレンスをどう捉えているのか、また、看護師の役割をどのように認識しているのか明らかにし、より効果的なチームアプローチにつなげる。

III. 概念枠組み

今回、教育入院におけるチームアプローチとしてのひとつの方法としてカンファレンスを位置づけた（図1）。

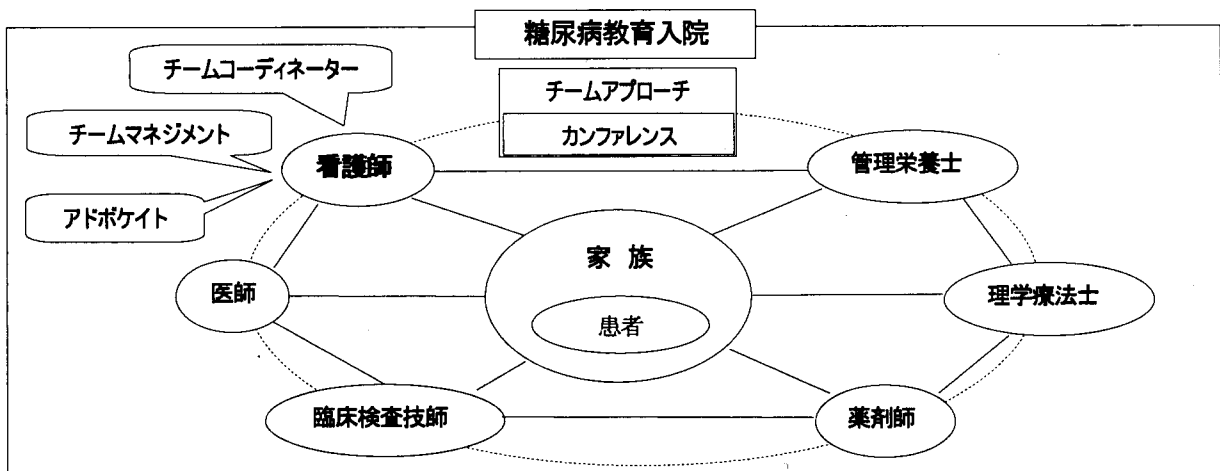


図1 糖尿病教育入院におけるチームアプローチ

〔用語の定義〕

チームアプローチ：糖尿病教育入院において、医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師がひとつのグループとして、相互に連携しながらそれぞれの専門分野から患者に知識を与えて技術指導をし、治療への意欲を起こさせるよう動機づけを行うこと。

役割：糖尿病教育入院において、割り当てられた期待される役目。

V. 研究方法

1. 研究デザイン

質的帰納的研究

2. 対象

A院の教育入院に携わり、カンファレンスに参加し研究協力の得られた各医療スタッフ（医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師）。

3. 研究期間

平成17年10月～12月

4. データ収集方法

教育入院におけるカンファレンスを行い、終了後集団で面接を行なった。

5. データ分析方法

面接で得られた内容をカセットテープに録音し逐語録を起し、逐語録を質的帰納的方法で分析を行なった。逐語録より教育入院におけるカンファレンスの捉え方、看護師の役割に関する内容を全て抜き出しラベルとしカテゴリーに分類、整理した。分析は研究者間で検討を繰り返し行なった。

VI. 倫理的配慮

研究にあたって対象者には、調査内容は本研究以外には使用しないこと、研究への参加や中断は自由意志であること、研究への参加や中断は自由意志であること、カセットテープ、逐語録等のデータは鍵のかかる保管庫にて管理すること、プライバシーの保障をする旨を口頭及び書面で説明し、同意書に署名を得た。

VII. 結果

1. 対象者の概要

対象者はカンファレンスへの参加者合計11名であった。内訳は医師(主治医)1名、看護師4名(プライマリーナース1名、病棟看護師3名)、薬剤師2名、検査技師2名、理学療法士1名、管理栄養士1名であった。

2. カンファレンスの捉え方

1) カンファレンスの必要性

今回のカンファレンスについて「カンファレンスは有意義だ」「必要だと思います」「少しずつカンファレンスの場を持っていくべきだと思う」と必要性を述べていた。

2) カンファレンスのメリット

カンファレンスのメリットには、【情報交換】【専門性の共有】【対面によるコミュニケーションの円滑化】の大カテゴリーが抽出された。

【情報交換】には<患者に関する情報交換><他職種が行う患者へのかかわり>という中カテゴリーが含まれていた。「短時間では聞き取れなかった患者さんの思いがわかってきます」「こちらの話のきかけも今回作ってもらえた」と述べていた。また「運動療法でどんなことをしているのかわかった」などと他職種が行う患者へのかかわり内容を把握する機会となっていた。

【専門性の共有】には<専門知識の収集><相談の場><充実した指導へのつながり>の3つの中カテゴリーが含まれていた。「ある程度調べるんですけど、限界があります」「皆さんの意見を聞かせていただいた」「参考になる」「患者さんのキャラクターを知ることによって個別性のある指導ができるようになると思います」と述べていた。

【対面によるコミュニケーションの円滑化】には「情報交換困難さの解消」という中カテゴリーが抽出された。「IMIS（コンピュータ）画面だけでは伝わりにくい」「実際に会って話をしたことで、あのときのことはこうだったのか、と理解ができました」と活字での情報交換の困難さを述べていた。

表1 カンファレンスの捉え方

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
カンファレンスの必要性		チーム医療が必要
		有意義
		やってみて必要だと思った
		カンファレンスは大事
		少しずつカンファレンスを開催していきたい
情報交換	患者に関する情報交換	20分やそこの時間では聞き取れなかったそれぞれの患者さんの思いがわかってきます
		栄養指導でどのように受けとめているのか
		今お話を聞いたらすごく積極的に取り組んでおられたって聞けて
	他職種が行う患者へのかかわり	こちらの話のきっかけも今回つくってもらった
		皆さんの意見を聞かせていただいた
専門性の共有	専門知識の収集	薬剤とか血糖値やったりとか、その、後食事のことですよね、ある程度調べるんですけど限界があります
	相談の場	参考になる 相談の場になる
	充実した指導へのつながり	もうちょっと充実した今後の指導ができていく
対面によるコミュニケーションの円滑化	情報交換困難さの解消	こういうふうなカンファレンスの場がないと総合的なっていうのは分かりにくい
		内容っていうのは確かにIMISの画面では見れるんですけど言葉で伝わりにくい
		顔合せていただいたらあの言葉はこういう意味で書いたのでとって言うのがもう少し分かっていく

3. 看護師の役割

看護師の役割については【チームコーディネーター】【的確な情報提供者】【患者の声の伝達】【患者との信頼関係】【他職種のかかわり内容の意味づけ】の大カテゴリーが抽出された。

表2 看護師の役割

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
チームコーディネーター	連絡の中心	そういうことの連絡してほしい 看護師さんに連絡の中心となってほしい 何とか先生にこれをお願いしてだとか、患者さんにこの時間に来てだとかいうことをお願いするようなポジションに看護師さんがなってほしい 私たちはなかなか連絡というのが取れない
	つなぎ	つなぎになってほしい
的確な情報提供者		質問すれば、欲しい答えが返ってくる 何を聞いても全部返ってくるので、すごく安心しています
患者の声の伝達		遠慮せずに苦言でも患者さんの訴えも全部言ってもらってかまいません こんなことを聞いたよということも、栄養士にとって耳が痛いような情報であっても遠慮せずにどしどし言ってもらえたらありがたいです
患者との信頼関係	患者とのコミュニケーション	コミュニケーションをとっていただきたい
	感情表出しやすい雰囲気づくり	あとで看護師さんに言ったりしていると聞くことがあります
他職種のかかわり内容の意味づけ		何を今日やったかと、その意味合いや意味付けをしてほしい

【チームコーディネーター】には「連絡の中心」「つなぎ」の中カテゴリーが含まれていた。「看護師さんに連絡の中心になってほしい」「つなぎになってほしい」などと述べていた。

【的確な情報提供者】では「質問すればほしい答えが返ってくる」「何を聞いても全部返ってくるのですごく安心」と知りたい情報を十分に提供できるポジションとして捉えていた。

【患者の声の伝達】では「患者さんの訴えを全部言ってもらってかまいません」「苦言であっても患者さんの訴えをどしどし言ってもらえたら」と述べていた。

【患者との信頼関係】では「患者さんとのコミュニケーション」「感情表出しやすい雰囲気」の中カテゴリーが含まれていた。「患者さんとコミュニケーションをとっていただけたら」という希望や「栄養指導の時には聞けなかったけど後で看護師さんに聞いたりしているみたいです」と述べていた。

【他職種のかかわり内容の意味づけ】としては「今日何をやったか振り返って、その意味づけをしてもらい

たい」と看護師への期待を述べていた。

Ⅷ. 考察

1. カンファレンスの捉え方

1) カンファレンスの必要性

対象者はみな、日々患者とかかわる中でカンファレンスの必要性を実感していたことが明らかになり、今回教育入院におけるカンファレンスの必要性が再認識された。

2) カンファレンスのメリット

【情報交換】について、各医療スタッフが持っている患者に関する情報を交換し合い、共有できる場として捉えていた。宮本ら⁴⁾は患者個々の背景や年齢、性格などをしっかり把握し、患者とともに考え、指導や治療に対応していくことが重要であると述べており、また、患者の仕事や生活パターンなど、実生活を考慮した働きかけが有効な教育入院につながる⁵⁾ともいわれている。患者がどのような思いをもって教育入院に臨んでいるのか、糖尿病をどのように受け止めているのか、あるいは生活背景や性格など、患者に関する情報を各医療スタッフが把握した上で患者にかかわることで、より個別性を重視した働きかけが可能となると考える。

また、カンファレンスを行うことで、いつ、誰が、どの時期において、何をするのが明確になり、他職種間のチーム活動が円滑になる⁴⁾といわれている。本研究でもカンファレンスを行うことで、教育入院に携わる各医療スタッフがどのようなかわり、働きかけをしているのかについて情報交換をすることができたと述べているように、各スタッフの活動内容を知ることができると同時に、自分が何をすべきなのかを考え各職種の専門性を生かした活動へつなげることができると考える。

【専門性の共有】では各専門職が合同でカンファレンスを行うことで専門知識を得ることができ、また専門的な相談ができると述べていた。カンファレンスに参加することで各医療者の知識や患者理解の視点が培われ、自分の勉強にもなる⁶⁾といわれているように、カンファレンスは各自の学習の場となり、専門的な質の向上につながると考える。また、各医療スタッフの専門性が高まることで、患者にとって効果的で個別性のあるかわりができるようになり、より充実した指導へとつなげることができると思われる。

【対面によるコミュニケーションの円滑化】については、A院では現在までカンファレンスが行われておらず、各医療スタッフ間のコミュニケーションの手段としてはカルテ上、IMISの画面入力上などの文字による情報交換が中心であった。「内容は画面では見れるんですけど、十分に伝わりにくい」と述べられていたように、意味合いが伝わらない場合があるなど、円滑なコミュニケーションが取れていなかったことが考えられる。実際に対面して話し合うことで意志の疎通がスムーズに行われ、確実な伝達ができると思われる。

2. 看護師の役割

【チームコーディネーター】については、糖尿病教育を進める中で、患者家族が希望する血糖測定指導の時間伝達を行なうなど、看護師は患者と各医療スタッフおよび医療スタッフ間の連絡など調整の役割を担うことが多い。黒田⁶⁾は、実際に患者に接する機会が多く、必要性に気づいた時にそれに応じて他の専門職に連絡したり依頼するなどの役割が看護師に求められていると述べているように、本研究においてもチームコーディネーターとして各スタッフをつなぎ、連絡の中心としての役割が看護師に期待されていることが明らかになった。

【的確な情報提供者】については「質問すればほしい答えが返ってくる」と述べられていた。看護師は患者の最も身近なところで日々情報収集が行える環境にあり、他職種からの質問に対して知り得た情報を的確に提供できる立場にあると考えられる。

【患者の声の伝達】では、対象者は、限られた時間のかかわりや指導では把握しきれない患者の反応をありのままに伝えて欲しいと希望していた。黒田⁶⁾は、患者の声はチームの方針やポリシーに大きく影響を与えることができ、援助の方向性を考えるときに重要と述べている。代弁者として患者の声を各医療スタッフに返していくことは看護師に課せられた役割のひとつといえ、患者の意思が反映された患者中心の医療へとつなげることができると考える。

【患者との信頼関係】では、布井ら³⁾は、患者の感情や考えを否定せずに受け止め、患者の歴史や生活、心理的側面などの情報収集の中から共感的に患者を理解することで人間関係ができ、患者の心理反応が判断でき適切な時期に適切なサポートができるようになると述べている。本研究でも「とにかく看護師さんには患者さんとコミュニケーションをとっていただけたら」と述べており、自己管理の支援者として患者との信頼関係を十分に確立するためにもコミュニケーションを図ることの重要性が再確認された。また対象者らは、看護師は患者が感情を表出しやすい職種であると捉えており、患者が自分の思いや考えをありのままに表出できるような雰囲気づくりも看護師に期待していた。患者が自分の思いや考えを表現できることは、患者との良好な信頼関係の構築につながると考えられ、効果的に教育入院を進める上での基盤になると考える。

【他職種のかかわり内容の意味づけ】については、患者は各専門職からそれぞれに指導を受けるが、一度説明を聞いただけでは十分に理解できていない場合もある。各スタッフの指導内容を関連付けて一緒に振り返り、各自の生活パターンに応じて、学習した内容を自分のものとしてできるよう、学習の支援者としての役割が求められていると考える。

IX. おわりに

今回の研究において、各医療スタッフがカンファレンスの必要性を実感し、継続して開催されることが重要と認識していることが分かった。また、カンファレンスのメリットおよび看護師の役割も明らかになり、A病棟では平成18年より教育入院スケジュールの中にカンファレンスが組み込まれることとなった。今後はカンファレンスを行う中で、その内容などの再検討も含め、患者にとってよりよい教育入院となるよう、各医療スタッフが連携し、効果的なチームアプローチへつなげていきたいと考える。

引用・参考文献

- 1) 岡谷恵子：チーム医療における看護師の役割, JIM, 12(8), 716, 2002.
- 2) 長澤利枝：患者の問題解決へ向けた他職種とのかかわりにおける看護職の発言及び行動の特性, 看護管理, 11(1), 47-52, 2001.
- 3) 布井清秀他：糖尿病のチーム医療の重要性と看護職の役割, Quality Nursing, 6(8), 40-45, 2000.
- 4) 宮元留美子他：事例にみる看護の実際 当院における糖尿病教育入院 - 他職種との関連により著しい教育効果をあげた事例を経験して -, 臨床看護, 28(7), 1024-1029, 2002.
- 5) 金木恵子：糖尿病教育入院の意義・内容と Quality Nursing Quality Nursing, 6(8), 31-39, 2000.
- 6) 黒田久美子：糖尿病患者へのチーム医療における看護婦の役割, Quality Nursing, 7(6), 38-43, 2001.